

新聞雜誌

明治辛未十月

第五號

定價二匁



特	別
18	
787	
15	



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑恠ト多ク竟ニ我ヲ
 異トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 太政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カタク世ニ生レシカ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞松局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞マテ見聞ニ隨ヒ刊行スルハ我 日本國中
 ノ人ト新知ヲ開ク樂ヲ同シ頑ナル心僻ノル事ヲ棄ントテナリ願ハ此
 テ讀ム人々ニテ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナラ驚可ク
 喜可キ事多ク唯一隅目ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レス夏虫氷ヲ疑ノ笑有リト
 知モヘリテソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カシト云ベケレ

新聞雜誌第十五號

明治四年辛未



○東京神田富山町廿七番借家大工山下長吉 妻佐
 多^{廿五} 九月十八日第二字頃男三子ヲ出産シ母子トモ
 ニ安^ス健^ヤナル由此夫婦平^ヒ素^ゴ直^ス實^ホナル者ニテ卑^ヒ賤^セニハ稀
 ナル聞ヘアリ如此ノ盛^メ福^タヲ得ルモ畢^ヒ竟^キ天ノ賞^タ賚^モニ依
 ルナルベシ 官ヨリ養育ノ為メ錢^ソ許^コ多^クヲ賜ヘルヨシ
 ○九月廿二日 聖上御誕辰ニヨリ百僚千官 天長
 ノ佳節ヲ拜賀ス 上之ニ醑^ホ宴^{エン}ヲ賜ヒ衆庶ト歡樂ヲ同
 フシ玉ヲ第十字 御出門馬車ニ御シ陸軍ノ整列ヲ巡

覽アソバサレタリ且此良節ヲ賀シ奉ラン為メ外國ノ
軍艦祝砲數色ヲ發ス又濱殿延遼館ニ於テ各國ノ公使
ヲ饗セラレタリ此日天下ノ刑獄ヲ止メラレ恩波ヲ四
海ニ播サル輦下府中ハ云ニ及ハズ普天卒土苟モ天
恩ヲ被ル者誰カ此 聖辰ヲ拜賀セザルベケンヤ

倫敦新聞抄譯

此度新發明ノ水雷火アリ之ヲ多ク備フルハ軍務局ノ
一要務タリ右水雷火ハ新發明ノ製作ニテ各箇皆綿火
藥八十四斤ヲ以テ破裂セシムヘキ由○數月前ヨリ魯
西亞政府大ニ兵ヲ調スルノ巷説アリ魯國近來晝夜間

新ナク兵器ヲ製シ刺ヘ英吉利白耳義佛蘭西合衆國等
ノ製造師ヘモ頼遣セシ一ニテ其虛妄ナラザルヲ見ル
ベシ○魯國頗ニ海軍ヲ増加ス不日ニ必ス強盛ノ海軍
備ルベシ是等ノ準備陽ニガラントゲユークコンスタ
ンチン米利堅ニ航スルヲ以テ名トスト雖モ其實ハ必
ズ別ニ旨趣アルベシ茲ニ又容易ナラザル事件アリ佛
使節シ子ラルフロ魯帝ニ謁シ殊遇ヲ受ク魯帝佛國
ト懇親ヲ厚フスルコトヲ然諾シ使節ヲ伴テ新列細綿
ヲ觀ルト云○日耳曼國ハ兵ヲ擧ヘキ形勢アリ○近頃
日耳曼プリンスビスマルクコーントビウストト際ア

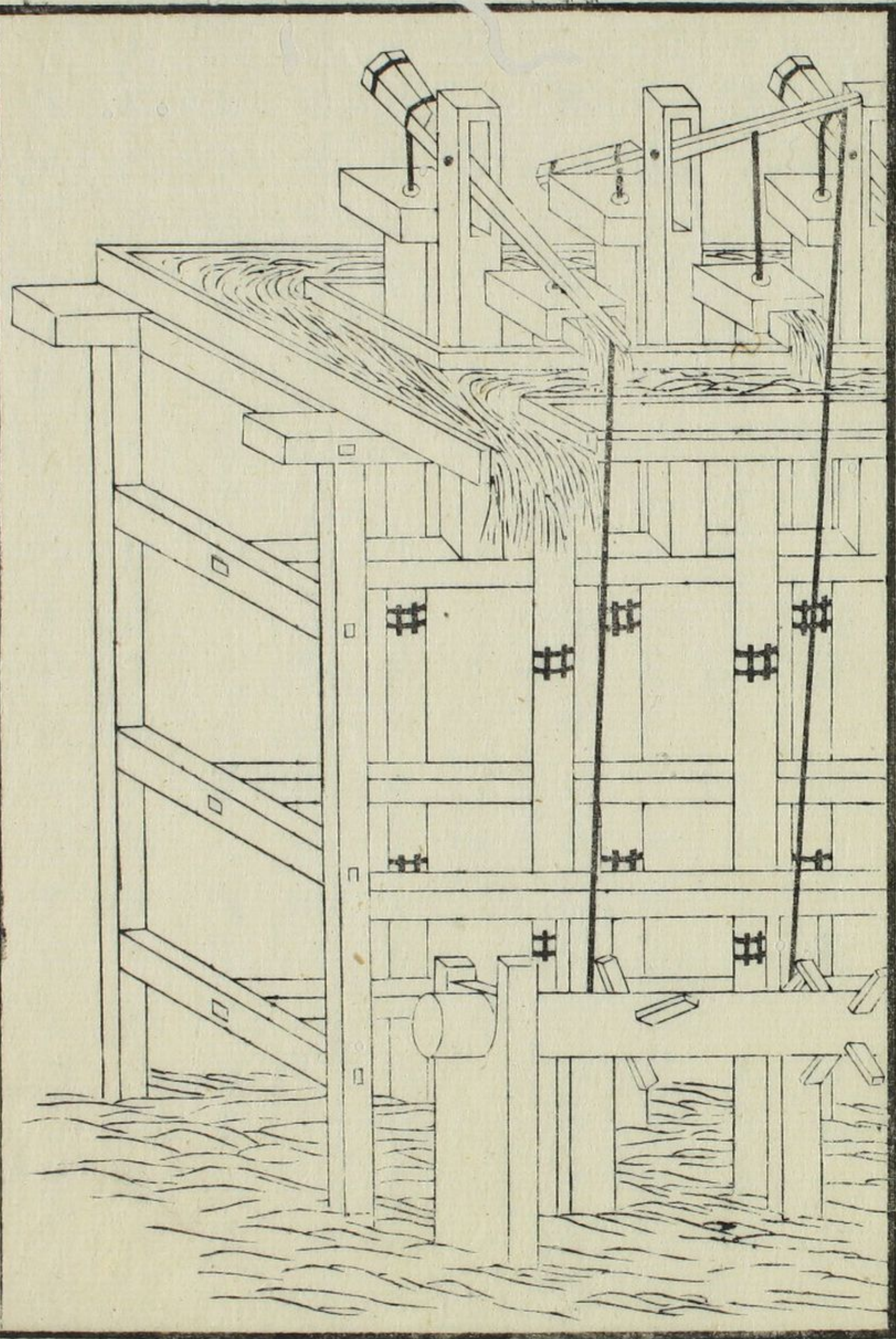
ルヲ聞其實否ホダ分明ナラズ「ローマニヤ事件ハ已ニ
 之ヲ解ス然シテ日耳曼チエンセロル「オーストリア」オーストリア地利政府ヲ以
 テ或法ニ付セントスルヲ「コーン」トビウスト「サキリ」サキリ拒ム
 其子細未ダ知ベカラズ雖然果シテ其一大事件ナルコ
 ト「埃地利」軍務丞相第九月一日ヲ期トシテ「埃地利」洪葛利
 ノ軍兵ヲ盡グ呼返スヲ以テ知ルベシ○方今日日耳曼魯
 西亞軍備ノ事「巴理斯」梓行「ブルシヤ」インゼイストト
 云書ニ出ツ其書ニ英ヲ敗「スミカ」セシムルコト佛ヨリモ速
 ナルベシト云コレ「ブリンス」スビスニルクノ計ニテ英佛
 兩國ノ一致ヲ懼ル、ヨリ出ルコト明也何トナレバ其

書ニ「ブリンス」スビスニルク「カ」魯西亞ト一致シ「キ」リーステ
 地「ア」ントウエル「ブ」上ヲ得ント欲スルコト又魯西亞ノ「印」
 度ヲ領セントスルコト并ニ魯日兩國前條事件ノ為ニ
 既ニ定約スルコトヲ述タレバナリ
 若森縣管下常州真壁郡邊土風トシテ「盆」踊大ニ流行
 セリ常七月十七日同郡堀内村觀音堂ニテ例ノ踊ヲナ
 サント男女群參セルニ西保末村小見川ノ渡シニテ多
 人數雜「ガ」速渡シ舟沈没シ四十餘人水中ニ溜入セシガ遂
 ニ十三人ハ溺死セル由無益ノ遊戯ニ可惜性命ヲ墜ス
 コト愍ムヘク又笑フベシ

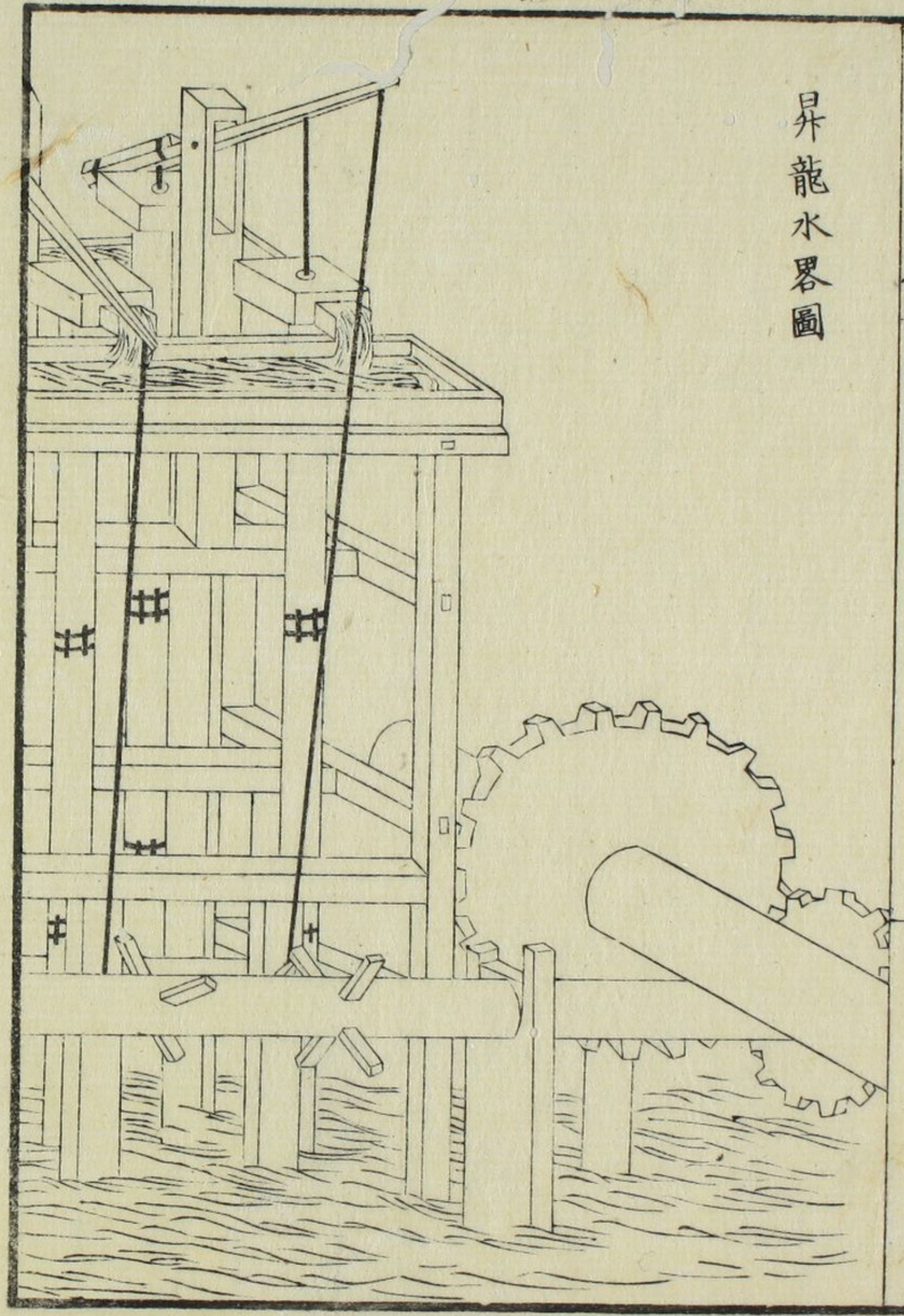
○當夏津山縣管下ノ山ニテ多クノ猿集議シ一匹ノ猿
 ヲ殘シ餘ハ皆樹蔭ニ隠レ殘リシ猿山ノ麓ニ伏シ巧ニ
 死シタルサマヲナセリ數多ノ鳥之ヲ見テ群來リ手足
 腹杯ヲ啄キシニ彼猿俄ニ起上リ一羽ノ鳥ヲ捕ヘ一色
 呼ビ出スニ前キニ樹蔭ニ隠レシ猿不殘出來リ右ノ鳥
 ノ藤蔓ニテ纏リ屢流水ニ投シテ遂ニ之ヲ殺シタリト
 ソ想フニ此レ鷓鴣ノ鷓ヲ使フヲ見認メテ鳥モ同様ノ
 用アリト思ヘルニヤ謗ニ伶俐ニ似テ却テ愚育ナルコ
 ヲ猿知惠一云ハ斯ルコトヲ云ナルミシ

○東京巢鴨駕籠町一番地借山口直二郎同町二十二番

地借店森良三郎西人ノ者多年水車ノ利ヲ考窮シ蚤ク
 新奇ノ器械ヲ工夫シ出セリ去ル甲子年越後國新瀉邊
 ノ農民請フモノアルニヨリ彼地ニ實驗ヲ試ムベキ所
 故アリテ果サズ爾後益工夫ヲ凝ラシ猶一層至便ノ器
 械ヲ發明セリ總テ是迄御國內高燥ノ場所ハ往々灌漑
 ノ利ニ乏シク農民ノ患少シトセザルニ今コノ器械ヲ
 用テ河水ヲ引クトキハ何程ノ高地ト雖モ人勞ヲ費サ
 ズシテ十分ノ水利ヲ得ベシ今般府廳へ願出製造ノ官
 許ヲ受ケ兩人始メテ多年ノ志願ヲ達セリ依テ略圖ヲ
 左ニ示シ世人ノ試験ニ備フ



昇龍水畧圖



○今般小管縣管内千住小塚原ニ於テ黴毒院ヲ設ケタ
 リ其告諭書ノ略ニ云從前逆旅ノ饌女ト唱ル者其名ハ
 期年奉仕ニ出テ其實ハ人ヲ販鬻スル者ニテ政ノ容サ
 ル所可廢ノ一也男女ノ交接ハ人倫ノ大節ニシテ之
 ヲ猥リニスルハ風ノ正カラザル所可廢ノ二也賣婦交
 接ノ間一人ノ黴氣衆人ニ傳染シ康健ヲ傷ヒ性命ヲ損
 ス害ノ甚シキ者可廢ノ三也然レ氏因習ノ久シキ断然
 之ヲ廢センモ亦妨アリ是ヲ以テ更ニ黴毒芟除ノ方法
 ヲ設ケ先ツ害ノ甚キ者ヲ防ントス云々○又賣女ニ告
 諭ノ略ニ云諺ニ虱虫ト負債ハ隱スニ隨テ殖ルト然レ

氏此二ノ者ハ猶終身之ヲ秘シ得ベシ獨リ黴毒ノ害々
 ル愈秘シテ愈顯レ眉ヲ損シ鼻ヲ墜シ肩トナリ聾トナ
 リ四肢不遂骨節疼痛終ニ死ニ至ル幾許ゾヤ其初速
 ニ之ヲ治セバ奚ゾ害此ニ至ラン只其初醫ニ示スヲ耻
 シ之ヲ秘ス毒漸ク熾ニシテ遂ニ秘スベカラズ妻子兄
 弟親屬他人皆之ヲ知ルニ至テハ毒遂ニ解セズ身遂ニ
 斃ル嗚呼何ゾ初メ一人ノ醫ニ示スノミ耻有テ他日衆
 人ニ示スノ耻ナキヤ加之一身毒ニ感シ之ヲ妻妾ニ傳
 ヘ之ヲ子孫ニ傳フ何ソ妻子ニ憐ミナキヤ夫黴毒ノ蔓
 延スル其本遊里ヨリ甚キハナシ汝等賣色ノ身トイヘ

トモ亦終身遊里ニ沈没スル者ニ非ス宜ク身ヲ愛シ生
 ヲ全フシ以テ預メ前途ノ計ヲナスベシ夫能思ヘ已ニ
 一身ヲ汚鬼ニ下シ人倫ノ大節ヲ毀ル猶忍ブヘカラザ
 ル者也況ヤ一身ノ毒ヲシテ百千ノ人ニ分與シ百千ノ
 人ヲシテ死生危難ノ域ニ陥ラシム其意ニ於テ快キカ
 若此ニ意アラバ速ニ廳意ヲ奉派シ一旦ノ耻ヲ忍テ終
 身ノ患ヲ免ルベシ只一身ノ患ヲ免ルハノミナラズ百
 千ノ人ヲシテ同ク患ヲ免レシム亦不善ヤ云々○徽毒
 院九月朔日ヨリ開院ニテ検査場ノ費用ハ旅籠屋ヨリ
 之ヲ出ス若シ出費ノ滞ル者ハ止業セシム又検査場ノ庶

務ハ旅籠屋主人順番ニテ之ヲ司ル又表入口番及ビ細
 小ノ事件ハ俗ニ仲殿ト稱スル男一人宛順番之ヲ任セ
 シム又検査ノ婦人出入進退等ハ俗ニ二階回シト稱ス
 ル女一人順番ニテ之ヲ勤メシム検査定日當分隔日夕
 リ但シ総人數ヲ準シ六日目ニ一周セシム又療養中容
 ニ接スルコトアル片ハ其主ヨリ罰金五兩ヲ出サシム
 其他諸規則整密此ニ載セ難シ之ヲ畧ス

大坂府下當復以來貧院創立ニ付献金ノ徒如左

一金六百兩

三井元之介
 鳴田八右衛門

一同三百兩

小野善介

一同三百兩

南新地茶屋中

一同百兩

長田作五郎

一同百兩

西大組大羊寄
井上市兵衛

一同二拾四兩錢百四拾八貫三百拾二文

豐鳴屋新左衛門

一同三拾兩

右ハ北久寶町五丁目若年寄玉田伊兵衛店先へ何
人カ姓名ヲ認メズ投入有之タル由

一同壹封并和歌

大津屋宗兵衛

浪花江能古志摩能浦農寸満々亭毛普加喜惠速仰
傳曾久務

此他町々ヨリ献金ノ者凡八百人餘コレアリタル由

○東京府下是迄家税ヲ以テ消防費ニ充ラレシ所令般

御趣意有之由ニテ家税廢止ノ令アリタリ

○八月中麻生縣ノ士族管野潜トイヘル人嘗テ菊間縣

ニ傭官シテ大教頭タリ近頃致仕シテ東京濱町麻生縣

邸ニ入りシニ菊間ノ書生追慕シテ業ヲ受ク依テ復生

徒ヲ集メ大ニ絳帷ヲ垂レントスト云

○九月廿三日招魂祭ニ付海陸軍整列祭砲數發競馬數

番アリ廿四日廿五日相撲盛ニ行ハレタリ

新聞雜誌第十五號 終

報告

白河縣管内岩城國稻葉郡江ノ網湊へ白水ノ産ニ劣ラ
ザル石炭多分ニ掘出シ濱下ケ有之候間仙臺稻前箱館
其外へ往復ノ蒸氣船何時ニ不限賣渡度候尤懸積候得
共ハシケ舟其他積入方ニ差支ハ一切相掛不申且直段
ノ儀ハ其時ノ相場ニ隨ヒ御相談可仕候間無御疑念御
破泊御買被下度奉願候

岩城國江ノ網湊積問屋

千葉常右衛門

同所賣主

鈴木甚左衛門

文部省御改正ニ付十月朔日ヨリノ博覽會延引ニ相成候

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ官所ノ博覽會新聞紙ヲ刊行ス
其旨意前ニ述レ明ノ如シ但身事其間買目及ク其ノ場多ク候ハレテ
同事ニヨラズ其處々ノ新聞ノ書集ノ本局及ビ下ノ州ノ人々其處々
ハ次第ニ刊行發兌スルニ但書付ニ其仕處姓名ヲ必ス載レテ
可シ無名ノ書ハ敢テ采入スル無根ノ浮言造説ヲハテ忍ルナリ

以賣買ノ引ノ号望ニコソテ出版スル事也

新發明巧器及書籍等

金銀具外ノ貸借等

失物尋物等

翻々々ノ集會等ノ引也

一田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
一諸般ノ湊出帆積荷ノ物件等
一店々々ノ新規賣出等ノ引也
一石等何レノ一行中三ノ度出板價ニ外處同事件一ヶ月分ニテ
三月分ハ日四枚五分六ヶ月分ハ日四十六枚一テ引受不ク

新聞雜誌定價

一 雜誌定價銀二匁 當分二月 三冊齊出紙

二 月刊引受候向一定價引一割半引

三 半年分三割引

八月日分八二割引

右定通約定前金受取候上毎冊發見候事ヲ海ノ有候ノ上其屋裏
候又遠方取次貴方等三人ノ本局ノ引合ノ上御相續云中候

東京小川の今川小池

本局

日

新

信

向西國橋山の三丁目

本局

和泉屋金吉工門